

# 特集

## 大学における国際エンジニア育成 —ASEANに日本土木ファンを、 日本にASEANファンを—

Education for International Engineers in Universities  
—for ASEAN students who like civil engineering of Japan,  
and for Japanese students who like ASEAN countries —

特集担当主査: 松島 格也  
特集企画担当: 千々和 伸浩、三上 貴仁、宮島 正悟

In recent years, education programs that aim to cultivate human resources that can play an active role in the international arena have been implemented in many universities. Although previously the counterparts of international exchange education programs are mainly universities in the U.S and European countries, in recent years, the number of education programs that place attention on Asian countries, in particular ASEAN countries have been increasing. The objectives of these education programs are cultivating Japanese students to acquire the ability to understand what people in ASEAN countries, their potential counterparts, are thinking of, and giving opportunities to students in ASEAN countries to familiarize with technologies and management techniques of Japan. This special issue, focusing on international exchange education programs with ASEAN countries, aims to find out a desirable way for international engineer education, in order to foster fans of ASEAN countries in Japan, and fans of Japanese civil engineering in ASEAN countries. It is our intention that this special issue will provide an opportunity to think about the direction to take in order to cultivate international engineers which is an urgent issue.

教育のグローバル化がうたわれるようになって久しい。以前の多くの国際的な研究教育交流は欧米を対象としていたが、近年はアジア各国、特にASEAN諸国に目を向けたものが多くなっている。土木の分野においても、インフラ輸出の拡大などを目指して、ASEAN諸国との交流が増加している。

これまでASEAN諸国との間では、共同研究を主眼とした学術交流が多く行われてきたが、近年では国際的に活躍できる人材を育成するための教育を目的とした取組みも広がっている。一口に国際教育といっても、その内容は多様である。短期留学や学位取得を目指した長期の留学、留学生の受入れや日本人学生の派遣、さらには、教員による出前講義の実施など、さまざまな取組みが行われている。

こういった各国との国際教育交流の目的の一つは、将来カウンターパートとなりうるASEAN各国の人びとが何を考えているか、などを理解

できる素養を身につけてもらうことにある。言い換えれば、ASEANの国々を好きになり、あたりまえのよううにその国の人びとと交流できる日本人学生を育てることを目指している。

もう一つの目的は、ASEAN各国の学生、若手研究者、行政担当者などに、わが国の技術やマネジメント手法などに親しんでもらうことにある。すなわち、日本の土木のファンを育てることが重要である。将来想定されるさまざまな場面において、そのような教育を受けた方々の存在が重要となることは想像に難くない。

これらの目的を実現させるためには、一体どのような教育をすすめていくべきだろうか。また、教育の効果を最大限発現させるためには、どのようなことに注意を払っていくべきであろうか。以上のような背景のもと、本特集では、ASEAN各国との国際教育交流に焦点をあてて、ASEAN諸国に日本土木のファンを、日本にASEAN諸国のファン

を育成するために、望ましい国際エンジニア育成のあり方について探る。

はじめに、国際的に活躍する土木エンジニア像とその育成に必要な教育内容やそのあるべき姿について、大津宏康氏に教示いただいた。これまでの豊富な国際活動経験に基づいた国際エンジニア教育に関する提言は、非常に示唆に富むものである。

続いて、三木千壽氏、松本英登氏、田巻雅氏の3名にご登壇いただき、産・官・学それぞれの立場から国際エンジニア育成の現状と課題について語っていただいた。国としての国際高等教育の取組みの現状や、ASEAN各国の教育に対する支援策、さらには産業界として求める人材像など、日本人学生および留学生双方の観点から議論していただいた。

次に、現在多くの大学において取り組まれている国際教育プログラムの中から4つの大学の取組みをとりあげ、それぞれのプログラムの受講生からの声を交えてその取組内容を紹介した。学部生対象の国際コース

から社会人対象のリカレント教育まで、採り上げたプログラムの対象はさまざまであるが、その目指している方向性に共通するものがあることを読み取っていただきたい。

ついで、ASEAN各国においてさまざまな分野で活躍されている4名の方々から、ご自身の経験に基づいた国際教育に関する提言をいただいた。いただいた提言は必ずしも現在行われている教育内容と合致するものばかりではないが、そのギャップをふまえて国際エンジニア教育のあるべき姿を考えるきっかけとした。最後に、学会として国際エンジニア育成を支える取組みを紹介し、本特集をとりまとめている。

今後土木の分野においては、ASEAN諸国をはじめとした海外における業務の占める割合がますます増加することが想定される。本特集を、喫緊の課題となっている国際エンジニア育成の目指すべき方向性について考える契機としていただければ幸いである。